

日本ビジネスコミュニケーション学会 ニュースレター 第15号

学会ホームページ：<http://www.abcj.org/>

事務局長：堀内龍文 連絡先：info@abcj.org

2012年5月25日

目 次

1. 関東支部春期大会6月20日開催のご案内
2. 関西支部例会6月9日開催のご案内
3. 本年度の年次大会11月11日同志社大学で開催予定のご案内
4. 第1回ウェブ・コミュニケーション部会の報告
5. シンポジウム「東日本大震災とボランティア」の報告
6. 今年度の活動予定、会費納入のお願い

■2012年度 関東支部春季大会を開催します。

6月20日水 18:00~20:30

テーマ：東日本大震災復興における危機への組織的対応
—危機における、政府、企業、軍事組織の対応—

東日本大震災が発生してから早くも1年以上が立ちました。復興に向けて、政府を初め、被災地の行政、地域の方々、企業、ボランティアの人達など、様々な組織や人達が取り組んでいます。

学会では昨年10月には「大震災と危機管理能力」をテーマに年次大会に行き、日本の組織の危機管理能力やリスクマネジメントのあり方について検討を行いました。また、今年3月には「東日本大震災とボランティア活動」として講演とパネル討論を行い、復興や援助のあり方を民間のボランティア活動の視点から検証しました。特にこのボランティアのシンポジウムでは、終了直後から参加者の学生から、「是非ボランティアに参加し復興に協力したい」との希望があり、シンポ開催の意義が有りました。

6月20日の支部春期大会では、これらの研究を踏まえて危機への対応や復興のあり方を政府、企業、自衛隊などの視点から考えます。尚、開催日時ですが、平日の仕事の帰りに参加できるように水曜日の夜に開催致しました。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

日 時：2012年6月20日（水）18:00~20:30

場 所：拓殖大学文京キャンパスC館402（地下鉄丸の内線 茗荷谷駅 徒歩3分：文京区小日向）

参加費：会 員：1人1000円 非会員：1人2000円 学部生・院生：無料

申 込：学会事務局までメールにてお申し込み下さい。 info@abcj.org

受 付：17:45 開始

開会式：18:00～18:05 司会：中川 有紀子（慶應義塾大学産業研究所研究員）

基調講演：18:05～18:35 「東日本大震災における物流－政府の対応と企業の対応」

講師 芦田 誠（拓殖大学商学部教授・経営経理研究所長）

講演：18:40～19:00「危機への組織的対応－理論」

講師 平田 透（金沢大学経済経営学系教授）

19:00～19:20「マネージングフローのケーススタディ 賢慮概念の理論的漸進に
向けて」

講師 成田康修（公益企業勤務）

19:20～19:40「危機における軍事組織の対応」

講師 綿森 昭示（航空自衛隊幹部学校勤務）

パネルディスカッション：19:40～20:10 パネリスト司会：平田 透

質疑応答：20:10～20:25 司会：中川 有紀子

閉会式：20:25～20:30 閉会挨拶

開催場所：大阪市立総合生涯学習センター

（大阪駅前第2ビル・5階）<http://www.osakademanabu.com/umeda/>

*参加費 会員 無料／ゲスト @¥500

*懇親会費 @¥3,000

プログラム：

1. 関西支部総会 1:00～1:30

会計報告 平成23年度支部決算／平成24年度支部予算

活動計画（平成24年度）

2. 基調講演 1:40～2:30 「大使館は何の役に立つのか？」／船越 博氏

*船越 博氏は新会員で、次の職場経歴の方です：

元外務省勤務／外交官、元JICA、元関西外国語大学勤務

3. 研究発表 2:40～4:50

1)「ビジネスコミュニケーションの実践（1）

――ヤクザ、暴力団組員に学ぶ交渉術」／松田 雄治 氏

2) 「キャリアの構築」／中林 眞佐男

4. 閉会の挨拶と後片づけ 4:50～

5. 懇親会：5:30～ 於「スーパードライ」 @¥3,000

2012年度ABCJ 年次大会（予定）

11月11日(日)

同志社大学で開催

開催時間：10:30～17:00 / (17:30～懇親会)
*同志社大学LCC (同志社校友会大阪支部産官学部会) と協賛
場所： I 部 / 同志社大学 寒梅館 (烏丸今出川)
II 部 / さいりん館 (京・室町二条、地下鉄丸太町)

テーマ：「日本再興とコミュニケーション」(案)

プログラム：

I 部 特別プログラム 10:30～12:30 / 講演「八重の桜、裏の梅」
本井教授：同志社の歴史、新島襄研究の第一人者

(II 部会場へ移動[徒歩10分])

*昼食希望者は13:00～ 昼食 (お弁当) 於 さいりん館 (京町屋)
[要事前申込 @¥500]

II 部 13:30～17:00 (年次大会)

13:30～14:00 ABCJ 総会

14:10～15:00 基調講演

15:10～17:00 研究発表3人

III 部 17:30～約2時間 懇親会 (同 さいりん館)

*参加費 @¥4,000

活動報告：2月18日(土)開催

第1回ウェブ・コミュニケーション部会の報告

テーマ：ウェブ・コミュニケーションが拓く新しい情報化社会

ウェブとはなんなのでしょうか？ World Wide Web の略称で、世界中からアクセス可能なインターネット上の情報検索システムのことで、電子メールと並ぶ、インターネットを使ったサービスの代表格です。情報どうしをつなぐリンクが、あたかも蜘蛛の巣 (web) のように広がっているイメージから、この名前がつけられました。このウェブはビジネス、社会で急速に広がり、新しい情報社会を拓こうとしています。

先ず、鍛冶直也氏 (インターネット・ビジネス・ジャパン株式会社) にウェブの役割、社会的意義、課題とともに、その製作、教育、について報告して頂きました。

また、Internet Academy のポスhton商品開発研究所所長でマサチューセッツ工科大学客員研究員、山田宏樹氏が帰国中とのことで、特別ゲストとして最新のウェブ研究事情について講演をして頂きました。

日時：2012年2月18日(土) 15:00～17:00

場所：拓殖大学文京キャンパス国際交流会館 F301

開会式：15:00～15:10

開会挨拶：北出学会長



司会：山野晋作



15:10～16:10

報告：企業におけるWebサイト役割の変遷
鍛冶直也
インターネット・ビジネス・ジャパン株

16:10～16:50

講演：これからのウェブコミュニケーション
山田宏樹
Internet Academy ポストン商品開発研究所所長
マサチューセッツ工科大学客員研究員、



学部生も真剣な眼差しで、新しいウェブコミュニケーションについて学んでいました。



活動報告：3月18日（日）開催

シンポジウム「東日本大震災とボランティア活動」の報告

テーマ：市民有志グループ「笑顔届け隊」の「週末ボランティア」活動

昨年3月11日の東日本大震災からまもなく1年がたとうとしております。学会では昨年の年次大会で「大震災と危機管理能力」をテーマに研究発表やパネルを実施して、政府、関係機関や東京電力などの震災への対応を検証致しました。一方、民間レベルでは、震災直後から全国から多くの人たちが被災地を訪れ、様々な救済活動や復興のボランティア活動が行われています。中でも川口市の市民有志グループは、自発的に「笑顔届け隊」を結成し、毎月2回石巻市や女川町で継続的に「週末ボランティア活動」を続けています。この活動は昨年4月23日に第1陣を送りだしてから今年3月中旬までは通算で22回を数えます。今回は、通算22回におよぶ現場体験、現地の被災者の皆さんとの心と心の交流について、体験談を語っていただきました。マスコミでは知らされていない事実を目の当たりにした参加者たちは、食い入るように、ボランティアの方々の活動体験の話に聞き入っておりました。

また学生ボランティア活動として、拓殖大学では学生を募り、被災地で様々な活動をしておりますその取り組み内容、体験を語っていただきました。

報告は現地で撮影したビデオや写真を用いて分かりやすく行われました。ビデオや写真のすごさは、その事実がありのままに伝わることです。次に、ボランティア活動者、震災被災者、ボランティア活動の専門家を交えたパネル討論を行い、震災後に発生した様々な問題や復興の課題とともに、ボランティア活動の意義、社会的な役割と貢献、今後の可能性など、これからのボランティア活動のあり方を真剣に討議しました。

今回のシンポジウムには、東北大震災の被害に遭われた石森ゆきみさんと阿部澄子さんが被害の実情を語るため遠路石巻市からわざわざご参加され、その実際の体験を、パネリストとして切々と語ってくださったことで、津波の恐ろしさ、危機に瀕しての人はどのように行動するのか、その真実の体験に、会場からは、すすり泣きの声ももれていました。

また、専門家の視点からボランティア活動について幅広い教育研究と実践活動に造詣の深い興梠 寛（こおろきひろし）氏にもご参加いただき、専門家としての示唆に富んだご意見を聞くことができ、非常に感銘を受けた学会となりました。

日時：3月18日（日）拓殖大学文京キャンパス国際教育会館3階F301

司会：中川 有紀子 慶應義塾大学産業研究所 研究員

15：00～15：05 開会挨拶 北出 亮 ABCJ理事長 拓殖大学教授

15：10～15：40 基調報告 中村修康
川口市民ボランティア「笑顔届け隊」隊員

真摯に、熱くそして冷静に語ってくださいました。



15:40~16:00 活動報告 藤吉裕二
川口市民ボランティア「笑顔届け隊」隊長

震災3日後には、現地入り。その生と死が隣り合わせの生々しい現場にいわせたことが、「何とかしなきゃ。いても立ってもいられない。」

その熱い想いが、ボランティア活動の原動力と持続力の源となっているそうです。

地元の子供たちも、「笑顔届け隊」が大好き！



16:00~16:20 活動報告 小澤貴史
拓殖大学学生センター学生生活部学生主事室長

建学以来の拓殖大学の歴史的精神を汲む我々に、何が出来るか。「利他の心」で復興支援を。ボランティアで現地入りした学生は、必ず何かをつかんで来て、大きく成長するそうです。



16:25~17:25 パネル討論

司 会：仮野忠男
政治ジャーナリスト、元毎日新聞論説委員

シャープな語り口で、ジャーナリストの真骨頂を垣間見せていただいたすばらしい司会でした。

パネリスト：

石森ゆきみ 震災被災者・石巻市

津波が襲ってきたときに海岸沿いの水産工場で働かされていた石森さん。海岸沿いの工場の屋根の上から、マスコミのヘリコプターに救助を求めても、無視されたときの悔しさ。行方がわからなくなった娘さんを探し回り、寒さも忘れて、水に腰までつかりながら、山と川を越えて、飲まず食わずで探し続けました。

阿部澄子 震災被災者・石巻市

津波の中で、握っていたお孫さんの手が離れて、今でも後悔に苛まれて、心のケアを必要とされています。「笑顔届け隊」の皆さんの温かい心のケアに救われました。「どうぞ、1年たったからと



「行って被災地のことを忘れないでください。私たちはまだ皆さんの力を必要としています。」との切実な声に、会場からすすり泣きが。

右の写真は、石森さん、阿部さんが被災された地元の様子。



パネリスト：興梠 寛 昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンター長
(社福) 世田谷ボランティア協会理事長
ボランティアという学問を究めてこられた大家の先生にお越しいただけたことは、学会として光栄でした。思慮深く、経験に裏づけされた、ボランティアの意義のお話をいただきました。



「笑顔届け隊」に家族ぐるみで毎回参加している最年少(高校2年生)の「震災ボランティアから学んだこと」の発表。

17:25 ~17:30 閉会式 挨拶
常任理事 中林眞佐男 (関西支部長)



震災の写真展示室

「笑顔届け隊」の皆さんと地元の皆さんとの「絆」がいっぱいつまった写真展でした。

写真展は会場の隣の教室に「笑顔届け隊」の方々が準備してくれました。





参加者の心に響く学会でした。参加者全員が、事実を目の当たりにし、心を打たれ、何かを持ち帰ることができました。心新たに「利他の精神」「絆の力」の尊さを、感じたのではないのでしょうか。参加していた学部生6名が、直後に、「笑顔届け隊」の方々に、自発的に、「ぜひ参加させてもらいたい」と申し出ていたことが印象的でした。

ボランティアシンポジウムの報告 (中川有紀子)

昨年と今年度の活動について

昨年度の活動

- 4月 日中ビジネスフォーラム
(震災のため中止)
- 6月 日台シンポジウム
- 9月 第1回地域社会専門部会
- 10月 年次大会
- 11月 学生発表会予選
- 12月 関東支部会兼学生発表会決勝
- 2月 第1回ウェブコミュニケーション部会
- 3月 災害ボランティアシンポジウム

今年度の活動予定

- 6月9日 関西支部例会
- 6月20日 関東支部春季大会
- 9月26日 専門部会予定
- 10月中旬 専門部会、講演会
- 11月11日 年次大会 (同志社大学)
- 11月17日 学生発表会予選
- 12月1日 関東支部大会兼学生発表会決勝
- 2月 専門部会
- 3月 専門部会

平成24年度会費納入のお願い

会期年度は4月1日～翌年3月31日までです。
*平成24年度より、各支部独立採算制度となり、会費(¥7,000)の納入は下の支部会計口座へ振込をお願いします。

関東支部

銀行：りそな銀行茗荷谷支店
店番：461 普通預金口座：1468474
名前：日本ビジネスコミュニケーション学会

関西支部

三井住友銀行 金剛支店
店番号 194 普通口座 3889419
口座名：日本ビジネスコミュニケーション学会
関西支部長 中林眞佐男

以上